

平成23年度指定管理運営業務評価票

施設名称：弥生文化博物館	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日	所管課：大阪府教育委員会事務局文化財保護課
--------------	-------------------------------	---------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
<b>I 提案の履行状況に関する項目</b>							
1施設の設置目的及び管理運営方針	○「社会教育法」「博物館法」「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」をふまえて運営しているか。 ○博物館及び風土記の丘の設置理念・使命を理解して運営しているか。 ○公の施設として求められる役割を理解して運営しているか。 ○自主財源確保に向けた運営がなされているか。	○資料の収集、整理、保管に努め、文化財を後世に伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■劣化の進行した遺物の修復</li> <li>◇劣化の進行した亀井遺跡出土のト骨（1点）、池上遺出土猪牙製垂飾（1点）を公益財団法人大阪府文化財センターにて保存修復した。</li> <li>■図書資料の受け入れを継続</li> <li>◇平成23年9月末で80,049冊を蔵書として登録（前年度から2750冊増加）。</li> <li>■資史料の保管</li> <li>◇館蔵品を湿度管理の徹底した環境下で整理整頓し保管。適宜点検を行いながら善良な管理に努め文化財を後世に伝えた。</li> </ul>	S A B C	S A B C	提案内容に従い着実に事業を進め、地元と協働して、銅鑄造や土器立体パズルの体験学習教材の作成や、学芸員の連続講座などの新企画も織り込みながら、公の施設の運営を行っている。最新の成果の発表については、「コウノトリ」と特定された足跡を初めて公開するなど、新聞にも取り上げられ、話題を呼んだ。また、校外学習などの利用は大幅に増加しており、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○歴史、文化等に関する教育の充実を寄与します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■歴史教育の場を提供</li> <li>◇小・中学校の児童生徒に対し、春の遠足などを利用して歴史教育事前学習の場として供した。平成23年1月末現在165校12,277名</li> <li>平成22年1月末現在224校12,973名</li> <li>◇教職員の研修・クラブ活動などの一環として積極的に利用されるよう働きかけた。</li> </ul>				
		○池上曾根史跡公園、池上曾根弥生学習館と一体となった事業を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■史跡公園でのイベント協働</li> <li>◇史跡公園の各種イベントで実施された泉州弥生の郷まつり（参加者＝3,000名）・商工まつり（総参加者＝110,000名）などに参加して協働をはかり、博物館を紹介するチラシを配付するなどして来館を促進した。</li> <li>■体験学習教材の作成と協働利用</li> <li>&lt;新規&gt;池上曾根弥生学習館・泉大津市と連携して文化庁補助金の交付を受け、銅鑄造や立体土器パズルなどの体験学習用教材を新たに作成し、これを共用することにより互いの活動を拡充した。</li> </ul>				
		○大阪の魅力を向上します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■考古学から大阪の魅力を抽出</li> <li>◇春季企画展で池島・福万寺遺跡を取り上げ、これまで30年間にわたる調査成果から稲作技術が伝わって間もない頃から現在まで営々と受け継がれてきた大阪平野の歴史を紹介し、大阪の魅力の向上を図った。（会期＝5/21～7/21：38日間、来館者＝5,965名）</li> </ul>				
		○府民や企業と協働し、活動の場を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地元サークルと共働し、企画展とミニギャラリー展を開催</li> <li>◇◇春季企画展1で「創作展いずみ」（会期＝4/1～5/8：34日間、来館者＝10,736名）、冬季企画展で現在「とんぼ玉100人展」（会期＝2/4～3/20：39日間、来館者＝9,380名）開催、とんぼ玉展では1日平均239名の見学者が来館。</li> <li>◇ミニギャラリー展で「スタンドグラス」・「藤原早苗パッチワークキルト」・「清水千真と社中書道展」・「佐藤正一絵画展」「卑弥呼絵画コンテスト」などを6回開催し、（入館者各平均＝230名）アンケート調査の結果、新規女性来館者層の開拓につながったことが判明した。</li> <li>■開かれた博物館としてミュージアムコンサートを開催。</li> <li>◇エントランスホールで声楽・ピアノを中心としたコンサート会場としての場を提供。</li> <li>平成22・23年度 開催回数 24回(H22年度来聴者＝5,494名、H23年度来聴者＝5,362名)</li> <li>&lt;新規&gt;新分野としてブルースを1回採用し、新規来場者の開拓を図った。</li> <li>■近鉄文化サロンとの共催</li> <li>&lt;新規&gt;館外事業として阿倍野にて「卑弥呼の衣装試着体験」講座1回（参加者＝22名）と、「銅鑄製作」（参加者＝20名）・「ガラス勾玉製作」（参加者＝23名）・「鏡製作」（参加者＝20名）などのワークショップ3回を開催した。</li> </ul>				
		○高い専門性をもつ人材と豊かな資料の活用を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校・団体からの出前授業などへの応諾</li> <li>◇土器や石器などの資料と共に職員を派遣。</li> <li>平成23年2月末現在101校4,119名</li> <li>平成22年2月末現在 62校1,750名</li> <li>前年同月比で39校2,369名増加。</li> <li>■各機関や学校への出講</li> <li>◇東大阪市や四條畷市など関係各機関から依頼された研究会や講演会での発表（総聴講者＝726名）や、桃山学院大学からの講義（受講者＝35名）の招聘などに応じた。</li> <li>■学芸員全員による連続講演会の開催</li> <li>&lt;新規&gt;2月度「世界の食と文化」をテーマとして学芸員を1名ずつ発表させた8回連続の講演会を企画。559名の聴講者を得て、アンケートで継続の要望など好評を得た。</li> </ul>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○調査研究を進め、最新の成果を発信します。	<b>■</b> 展覧会開催の意義と目的を明確にするよう配慮 ◇春の池島・福万寺展で「コウノトリ」と特定されたばかりの大形鳥類足跡型を初めて公開するに際し、現生種の足跡を並列して理解の深化を図った。				
2 平等な利用を図るための具体的手法・効果	○事業内容が平等利用を担保する内容となっているか。 ○高齢者、障がい者等に対する適切な配慮がなされているか。	○地方自治法第244条の2・3項を踏まえ、平等利用の確保に努めます。	<b>■</b> 法令の遵守 ◇指定管理を受けたものとして、また公共の場・文化の情報発信基地として、広いテーマと視野に立ちながら年齢・性差に関係なくあまねく活用されるよう計画した。 ◇とんぼ玉展を弥生時代とそこから現代に繋がるガラス工芸品展と位置づけ、全国の作家100余名との協働を行い、通常の来館者とは性差において逆転し、若齢層の割合が高くなる傾向が現れた(来館者=9,380名)。	S (A) B C	S (A) B C	高齢者大学への出講や学習会の実施、子どもや外国人に分かりやすい資料等の準備を行うとともに、職員研修を行ない、平等利用に対し、配慮が十分されていると思われることから、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○高齢者、障がい者等に対する利用援助を進めます。	<b>■</b> ソフトとハード双方からの支援 ◇65歳以上の割引料金設定や、車椅子の準備、触れることのできるレプリカの作成、多目的トイレの設置、点字誘導板や解説板の設置など、より利用しやすく、わかりやすく配慮した。 ◇これまでに職員に対して講習会を実施し、見学に際し援助が行えるよう準備。 ◇NPO法人大阪高齢者大学自然文化を楽しむ科55名からの要請を受け、出講と館内および、池上曽根遺跡史跡公園での現地学習会を各1回実施した。				
		○子どもに分かりやすい解説を充実していきます。	<b>■</b> 補助教材の充実 ◇ワークシートの準備や、レプリカや実物を併用した解説により、単に平易にするのではなく、より具体的に解説することにより理解度を高めるよう配慮した。				
		○子育て世代の利用援助を進めます。	<b>■</b> 設備の充実と後方支援 ◇ベビーカーの準備、オムツ交換用ベビーシートを設置した。 ◇親子ともども参加していただけるワークショップの企画立案を行なった。 ◇学校での体験学習の際などに、同伴保護者無料券を配布し、親子も同時に学べる場としての利用促進を図った。				
		○外国人利用者にやさしい博物館を目指していきます。	<b>■</b> パンフレットの整備 ◇ボランティアの支援や、外国語の堪能な職員の協力を得て英語・中国語・ハングルによるパンフレットを作成した。 <b>■</b> スペイン語に精通した職員の採用 ◇スペイン語に精通した職員を採用し、パンフレットの製作を行なうとともに、地元富秋中学校の交換留学生に展示解説を行なった。				
3 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	○学校教育との連携、館外普及事業、広報普及計画等について、前回指定管理実績と同等もしくはそれ以上に積極的な事業を実施しているか。 ○府民ニーズに合致した多彩なイベントを実施しているか。 ○その他利用者の増加を図るための具体的手法をとっているか。	○特別展・企画展・スポット展示などを充実します。	<b>■</b> 見学者の嗜好とニーズを追及した展示 ◇考古学的テーマのみにとらわれず、明治時代の外交官「加藤恒忠」が収集した絵葉書展(会期=12/3～1/29:40日間、来館者=4,086名)や、トンボ玉展(来館者=9,380名)、パッチワークキルト展など多彩な展示を企画した。 <b>■</b> 図録の充実 ◇特別展で作成した図録には、考察を加えるなどして専門性を高めた。その結果、現在銅鑼展(750部印刷)が残部僅少、土井ヶ浜展(600部印刷)が会期終了直後に完売する状況で、非常に注目度が高かったことが窺える。 <b>■</b> 多機能端末の導入 <新規>特別展でiPadを併用し、展示品の特徴や細部をより鮮明に印象づけると共に展示の理解度を高めること大きく寄与した。 <b>■</b> 入館者 平成23年度1月末現在 43,951人 平成22年度1月末現在 46,885人 平成23年度入館者目標 57,210人(申請時) 58,000人(申請後の経営目標)	S (A) B C	S (A) B C	考古学テーマに限らず、トンボ玉展・キルト展など幅広いニーズに応える企画展を行うなど、利用者増への取組みを積極的に行っている。出前授業の数字も大幅に増加しており、学校教育への支援については成果を挙げている。教職員研修など今後効果が表れると予測される事業に新たに参画しており、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○「博物館in school」事業を充実し、学校教育との連携を進めます。	<b>■</b> 学校教育への支援 ◇郊外学習や歴史クラブからの要請を受け活動を支援した。(11回、264名) ◇出前授業の要請に対し積極的に応じ、1月末時点で100校4,013人に達した 平成23年1月末現在100校4,013名 平成22年1月末現在 60校2,313名 前年度同月比で40校1,700人増加。 平成23年度目標 74回 <新規>府教育センターの教職員自主研修支援施設に登録し、教職員(2日間、6名)と児童生徒双方に対する連携を深めた。				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○「出かける博物館」事業を充実し、知名度アップを図ります。	<p>■府外への広報活動の拡充 ◇地元での各イベントばかりでなく、御堂筋kappoや、阪急西宮文化サークル、兵庫県立考古学博物館（各1回）など、遠方の催事にも積極的に向いて知名度を高めた。</p>				
		○地元市町との連携で広報活動を強化します。	<p>■和泉市との連携 ◇和泉市文化財活性化推進実行委員会の委員として副館長を充て、文化財を活用して市の活性化を図る計画に参画して広報活動を強化した。 ■泉大津市との連携 ◇織編館で当館の企画に合わせた展示を行っていただくことにより、互いの連携をはかり広報を強化した。 ◇学習館・情報館と連携し3館5回入館で1回無料となるスタンプラリーを実施した。 ◇賞頭衣コンテストの審査員に副館長を充て、選定した作品を商工まつりで表彰すると共に、11月23日から29日まで館内で優秀作品を展示した。 ■両市共通での連携 ◇地元二市の広報誌に毎回館の催事などを掲載していただいて波動的な広報活動を展開した。</p>				
		○「府民が参加する博物館」事業を推進します。	<p>■ミュージアムコンサートの開催 ◇府民から広く出演者を公募し、昨年同様、年間24回の開催を準備し、これまで22回で4,862名の聴衆を得た。 ■企画展の開催 ◇春季企画展Ⅰで和泉市文化協会美術部門11部門と協働して4月1日から5月8日にわたって「創作展 いずみ」を開催し、10,776名の来館者を得た。 ■ミニギャラリー展の開催 ◇エントランスホールにて地元在住の方がたの作品を中心とする絵画・ステンドグラス・パッチワークキルト等を開催し、3月に書道展を加え合計6回を実施する計画。 ■絵画コンテストの開催 ◇府内を中心とする小学生を対象として「卑弥呼の時代を描こう」と題する絵画作品を募集。作品全点（46校、1,000点）を館内で展示すると共に、優秀作品を府立中央図書館で展示した。（期間内来館者＝24,494名）</p>				
4サービスの向上を図るための具体的手法・効果	<p>○利用者の学習を助けるための情報提供をしているか。 ○ウェブを活用した積極的な事業を展開しているか。 ○館外事業や館外展示等の積極的な資料活用が行われているか。 ○その他サービスの向上を図るための具体的手法が提案されているか。</p>	<p>○スタンプカードを導入します。</p> <p>○動画を配信するなど、ホームページを充実します。</p> <p>○館蔵資料を活用し、出張展示などの館外事業を充実します。</p> <p>○大型スクリーンを利用し、映像による解説等を行います。</p> <p>○さわれる資料を充実します。</p> <p>○発掘調査報告書を開架し、情報を提供します。</p>	<p>■共通スタンプカードの作成 ◇学習館・情報館とタイアップした共通スタンプカードを作成し、互いの利用促進とを図った。</p> <p>■ホームページ更新作業の簡素化 ◇外部委託していた画面更新を、職員が直接入力する方法に変更することにより、アップにかかる時間の短縮化と、リアルタイム的な情報更新ができるように改善し、以下のアクセス回数を得た。 平成23年2月末現在 399,905回 平成22年2月末現在 307,786回 前年度同月比で92,139回増加。</p> <p>■館蔵品の出張展示 ◇卑弥呼御膳セットを府立狭山池博物館に貸出。（期間内来館者＝7,752名） ◇池上曾根遺跡井戸出土土器を泉大津市織編館に貸出。（期間内来館者＝551名） ◇船橋遺跡出土土器リパティおおさかに長期貸出。</p> <p>■昨年度新設した大型スクリーンによるダイナミックな映像解説 ◇弥生時代のみならず館の位置する泉州地域の文化財全般の解説映像資料を放映し、理解度を高めるように配慮した。</p> <p>■中空立体パズルの作成 ◇新規&gt;文化庁の補助金を受け、池上曾根遺跡出土土器の絵画土器と、船橋遺跡出土の水差形土器について形ばかりではなく重さまで複製した中空立体パズルを作成した。</p> <p>■公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書図書の開架 ◇図書コーナーに当財団が作成した遺跡発掘調査報告書を開架して利便性を高めると共に、それらの図書の購入方法や、その他の蔵書の閲覧方法などの解説文を供した。</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>共通スタンプカードを導入し、史跡公園との一体活用を図るとともに、HPを充実し、アクセス回数を増加させるなどサービスの向上を図るための事業を展開した。 概ね提案どおりの効果が認められ、指定管理者の自己評価については適正と考える。</p>	<p>施設所管課の評価は妥当。</p>

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○無料ゾーン導入のための検討を行います。	■現状の把握 ◇サロンスペース無料化との前提で検討を行ない、券売機の位置と入場券確認場所との関係、エントランスから展示室への導線などを検討した。結果、現状のまま実施するには、さらなるスタッフの増員と、備品整備の必要性があるなどの課題を抽出した。				
5新しい展示テーマ・運営手法の提案	○学術研究の成果に基づいた魅力あるテーマ選定及び展示手法を実行しているか。 ○展示や博物館資料をよりよく理解できる方法をとっているか。 ○その他新しい展示テーマ選定及び運営手法を実行しているか。	○「客員学芸員」制度を作り、これを活用します。	■候補者の選出 ◇かつて博物館に勤務した関係者や、弥生時代を専門とする考古学関係者などの中から候補者を選定しているところで、今後実現に向けた取り組みを行う。	S A B C	S A B C	客員学芸員、学生ボランティアなど外部から人を導入する手法については、実現できなかったが、他館との連携展示を開催するなど、魅力あるテーマ、新しい展示テーマについては常に企画されており、館外事業の回数、参加者数については目標以上の成果を上げている。 指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○「学生ボランティア」を募集し、事業を活性化します。	■参加者の確保 ◇桃山学院大学「博物館へのいざない」講座への出講の中で「博物館の現実—考古学博物館の視点から」という講義を35名に実施し、参加を促す話を行った。				
		○多様なニーズに応えるための展示を目指します。	■銅鐸展の開催 ◇夏の特別展で府内では稀にみる117点もの銅鐸を一同に会し、その系譜に迫る最新の研究成果を披瀝すると共に、見学に際し多機能端末のiPadを併用して理解度が高められるよう配慮した。(会期=7/16~9/11:50日間、期間内来館者7,115名) ◇秋の特別展では古人骨が300体以上出土した山口県土井ヶ浜遺跡を中心とする響灘周辺の遺跡にスポットを当て、考古学のみならず人類学的見地から現代人の起源に迫る展示を行なった。(会期9/23~1/23:51日間、期間内来館者11,893名) <新規>秋展に関連し館外でシンポジウムを開催し、407名の参加を得た。				
		○これまでに蓄積された他館とのネットワークを活用していきます。	■滋賀県立安土城考古博物館との連携展示の開催 ◇標記博物館と「銅鐸を探る」とするテーマで二回目の特別展を開催。 ◇双方の学芸員が互いの博物館で、大阪・滋賀博物館ジョイントセミナーと題して講演を実施した。(聴講者46名) ■泉大津市立織編館との連携展示 ◇当館の特別展・企画展に合わせて関連性の高い展示を行なっていただいた。(期間内来館者551名)				
		○館外事業の回数については、これまでの実績と同様100回以上を目指します。館外事業のうち野外イベントについては、平成21年度(18,928人)をうわまわる2万人以上を目指します。	■積極的な取組みの結果 ◇回数については1月末時点ですでに100回を超え、野外イベントへも積極的に参加することで2万人に達した。				
6他機関等との相互協力	○学術団体・他の博物館等との連携及び相互協力について具体的にやっているか。 ○その他、他機関等と相互協力しているか。 ○池上曽根史跡公園及び池上曽根弥生学習館との一体的活用策を提案しているか。	○地域の博物館相互のネットワークを強化します。	■池上曽根遺跡学習館との連携強化 <新規>連名で文化庁補助金申請を行い、体験用鋳造型の作成や勾玉鋳造体験用具、中空立体土器パズルを作成し体験学習教材の作成と、協働利用の充実を図った。 <新規>学習館主宰の土器野焼き体験では、待ち時間を利用して31名が弥生博に来館していただき、展示解説を実施した。 ■池上曽根遺跡情報館との連携強化 ◇館内の一角に鏡製作工程復原模型展示コーナーを設け出張展示を実施した。 ■泉州・紀北ミュージアム・ネットワークとの連携強化 ◇加盟39館で前年度実施したスタンプラリーの景品として弥生博の品物を提供し、知名度の向上と連携を強化した。	S A B C	S A B C	地元史跡公園、学習館との連携については、文化庁補助金を活用し、共通の体験学習教材を作成するなど連携強化を図り利用者を増加させている。 また、企業、研究機関との積極的な連携を行い、場の提供新たな展示に結び付けているため、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○企業などと連携を進めます。	◇地元の佐竹ガラス株式会社・日本人造真珠硝子細貨工業組合、日本ランプワーク協会との共催で冬の企画展Ⅱ「トンボ玉100人展—ガラスの中の夢幻—」を開催した(期間内来館者9,380名)。 ◇地元井阪ガラス製作所の製品をミュージアムショップで展示販売した。 ■毎日新聞社との協働 ◇秋展にともない開催したシンポジウムの会場として自社のオーバルホールを提供していただき、参加者の利便性と、館・社相互の集客力向上を図った。(参加者=407名) ■文化サロンとの協働 <新規>「着て学ぶ 卑弥呼の衣装」と題した講演会や、3回にわたって「銅鐸製作」(参加者=22名)・「ガラス勾玉製作」(参加者=23名)・「鏡製作」(参加者=20名)の製作体験講座を開催した。				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○研究会等との連携を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■近畿弥生の会との連携 ◇共催して「聞いてなっとく弥生の世界」と題する講座を5回にわたって催した。(参加者456名)</li> <li>■大阪府立中央図書館との連携 ◇共催して「大阪歴史探訪」と題する10回講座うち、4回に学芸員を派遣した。</li> <li>■全日本博物館学会との連携 &lt;新規&gt;2011年度第2回研究会会場として12月20日に館を利用していただくことにより連携を図った。(参加者=42名)</li> </ul>				
		○地元の学校との連携を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■泉大津市条東小学校との連携 ◇P T A総会で「親子で学ぼう池上曽根遺跡-地域に広がる弥生遺跡-」と題して10月29日(土)に講演を行い68名の参加者を得た。</li> <li>■府立泉大津高校との連携 ◇学校協議会委員として副館長を派遣し、2回にわたって委員会に出席させた。</li> <li>■職場体験の場を提供 ◇府立伯太高校・和泉総合高校や、和泉・泉大津市内の小・中学校からの職場体験生を受け入れ、社会教育の場として活用していただいた。(小・中7校25名、高校1校2名、大学1校2名)</li> </ul>				
		○公共機関との連携を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大阪府立中央図書館との連携 ◇図書館で「卑弥呼の時代を描こう」コンテスト優秀作品展を開催した。(期間中来館者=24,494名)</li> <li>■大阪府計量検定所との連携 ◇館の催事などで「計量クイズ」などで参加していただき協働を図った。</li> <li>■大阪府環境農林水産研究所との連携 &lt;新規&gt;「天下の台所 大坂」と題した講演会を共催し、その会場として1度館を供した。(参加者=60名)</li> <li>■泉大津市産業政策課との連携 ◇「卑弥呼の衣装コンテスト」を行ない、優秀作品を商工まつりで表彰すると共に、館内でこれらの作品を展示した。(期間=11/23~11/29:7日間、来館者375名)</li> </ul>				
		○研究機関との連携を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■奈良文化財研究所・大阪府教育委員会・弥生文化博物館との連携研究 &lt;新規&gt;奈良文化財研究所の事業に即し「大阪府守口市八雲遺跡出土極細石器の実体研究」と題する連携研究を行なった</li> <li>&lt;新規&gt;上記の成果を弥生プラザコーナーの展示に反映させ、さらに、館内でこれに関連した講演会を開催し、その内容を大阪府教育委員会の担当者に発表していただいた。(参加者272名)</li> <li>&lt;新規&gt;全日本博物館学会 2011年度第2回研究会会場として12月20日(日)に館を利用していただき、あわせて参加者42名に施設を見学していただいた。</li> </ul>				
7施設及び資料の維持管理の内容、合理性	○施設・設備の維持・安全管理計画は適切か。 ○資料の保管及び保管について適切な管理及び体制がとられているか。	○効率的かつ安全な施設管理を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■設備管理の徹底 ◇安全管理と常時使用する機材を除き、冷暖房器具の間欠運転と温度管理、常時使用しない廊下の消灯などの節電対策に努め23年7月から24年1月末段階で、前年同月比で最大10月のマイナス18.3パーセント、平均マイナス6.4パーセントを達成した。</li> </ul>	S	S	節電対策などの、効率的な施設管理や日常的な管理は良好であることから指定管理者の自己評価は適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○保管環境などを定期的に点検し、万全の資料管理を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■確実な定期点検の実施 ◇各種機械の定期点検を確実にこなして温湿度管理を確実なものとし資料の善良な管理につとめました。</li> <li>■人的管理の加味 ◇上記の機械管理のみに頼るのではなく、適宜、人が巡回しながら館の特性を知り、弱点を補いながら、目視や体感などによる点検を行い管理の徹底を図った。</li> </ul>	(A)	(A)		
8府施策との整合	○府事業及び公益事業等への協力状況 ○行政の福祉化実施状況 ○就職困難層への雇用・就労支援・知的障がい者の清掃現場就業状況 ○府民・企業、NPO等との協働状況 ○環境問題への取り組み状況	○「『大阪の教育力』向上プラン」にそって、博物館事業を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■弥生時代を現代へつなぐ解説 ◇弥生時代の農作業などの協業の様子と、プランに謳われる子どもたちが社会に順応し、社会人として自立できるようにとの指針を重ね合わせた解説を行なった。</li> </ul>	S	S	府施策に沿った提案に対しては、概ね実現しており、指定管理者の自己評価は適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○「大阪ミュージアム構想」にそって、大阪の魅力を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の自然・文化・特性に根ざした博物館として ◇弥生文化・時代に特化した博物館の魅力と、隣接する池上曽根史跡公園・曽根神社の社叢を構想の理念に徙いながら解説・活用するよう心がけた。</li> </ul>	(A)	(A)		
		○世界文化遺産登録に向けて協力していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録推進本部会議への協力 &lt;新規&gt;標記団体より要請を受け、国際シンポジウムへの後援を行なうと共に、館内にポスターを掲示して事業への協力と啓発を行なった。</li> <li>■百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録をめざす古代史フォーラム2012への協力 &lt;新規&gt;羽曳野市L I C羽曳野で2月26日(日)に行なわれた標記フォーラムにパネルセッションで参加して協力した。(参加者=434名)</li> </ul>	B	B		
				C	C		

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○「こころの再生」府民運動に協力します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもファーストデイへの協賛事業</li> <li>◇毎月第三土曜日の子どもファーストデイに準拠し、「大人が子どもの育ちに向き合おう。子どもの話をじっくり聞こう」の理念に従い、親と子どもが共に参加し、ものを作り上げることのできる体験型ワークショップメニューを各種用意した。</li> </ul>				
		○行政の福祉化実施状況 ・就職困難層への雇用・就労支援 ・知的障がい者の清掃現場就業状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■製作品の販売</li> <li>◇社会福祉法人すいせん会すいせん作業所員によって制作していただいたストラップ・バックをミュージアムショップで展示販売し、その他の製品もカタログ販売した。</li> <li>■清掃現場への就業状況</li> <li>◇知的障がい者については、清掃会社を通じ清掃現場に人員を配した。</li> </ul>				
		○ボランティアの幅を広げ、府民協働を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■府民を中心とした人材の確保</li> <li>◇標記人材24名を特別展・企画展の外国語パンフレット作成、土器バズルの実施、絵画コンテスト入賞作品展などの館内巡回要員として館で組織し、この方がたと共働して館の運営の円滑化を図った。</li> </ul>				
		○NPOの協力を得て、博物館事業を充実します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■NPO法人大阪高齢者大学</li> <li>◇10月の講義のーコマとして、館と池上曽根史跡公園の見学を組み入れていただいた。(聴講者55名)</li> <li>■NPO法人フィールドミュージアムトーク史遊会</li> <li>◇2月26日(日)に行なわれる古代史フォーラムでパネル展示・チラシ配布などで情報を発信していただいた。(参加者=434名)</li> <li>■NPO法人歴史体験サポートセンター楽古</li> <li>◇3月実施予定の弥生フェスティバルにガラス玉プレスレット製作体験で参加していただいて催事の充実を図ろうと計画している。</li> </ul>				
		○府民やNPOが参加、参画できる機会を増やします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地元や関連する各種団体への参画要請</li> <li>◇地元を中心とするサークルや文化協会などと協働して、創作展 いずみ・絵画・ステンドグラス・書道・パッチワークキルトなどの企画展・ミニギャラリー展を開催した。</li> <li>■NPO法人歴史体験サポートセンター楽古への参加要請</li> <li>◇3月実施予定の弥生フェスティバルに参加要請を行いました。</li> </ul>				
		○環境問題に配慮した取組みを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■空調施設などの細かな調整</li> <li>◇温度管理を徹底し、冷暖房装置の使用を必要最小範囲に抑えた。</li> <li>◇執務室およびその近辺の照明を減らす、間引くなどして消費電力を抑えた。</li> <li>■啓発運動の実施</li> <li>◇職員やスタッフへの啓発活動を行ない意識改革とそこからの実践を行なった。</li> </ul>				
		○快適な環境づくりを目指した取組みを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■来館者視線での運営</li> <li>◇冷暖房装置の適正な稼働、館内清掃の徹底、巡回による目配せなど、来館者視線に立った環境づくりを心がけた。</li> </ul>				
I 総括		<p>弥生文化に特化した博物館の特性を生かし、足跡からコウノトリと特定された最新情報の提供や、銅鐸の系統を追求して製作工人の特定に迫る展示、人類学知見から明らかにされる日本列島人の系譜と成立など、歴史系博物館の使命を果たすことができました。</p> <p>来館者の視座に立ちソフトとハードを整備しながら利便性や話題性を追求し、あらゆる世代の人びとに来館いただけるよう努力し、また、館外では学校教育に関与する取組みを積極的に行い、歴史教育の一環の場としての利用促進も高めました。</p> <p>文化庁の補助金を受けて地元市との連携や協働を従来以上に深化させることに成功し、さらに、地元の企業や公共団体、サークルとの協働を積極的に図ることで地域に根ざした博物館との位置づけをより明確にすることができました。</p> <p>他の博物館などと連携し、より広範囲な地域やそこに集まった人びとに大阪の魅力について情報発信を行なうと共に、弥生文化博物館の存在とさまざまな活動を周知するようつとめた結果、その内容と実績について、広島県立歴史博物館や、東京都埋蔵文化財センターから視察や見学に来ていただけるようにまで浸透しました。</p>					
II さらなるサービスの向上に関する項目							

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
9利用者満足度調査	○利用者満足度調査結果分析を取り入れ、フィードバックしているか。	○アンケート調査を充実し、よりよい博物館を目指します。	<p>■アンケートの集計と分析</p> <p>◇特別展や企画展はもとより、講演会やミュージアムコンサートを開催することにアンケート調査を実施し、これらを分析する会議を開催した。</p> <p>■運営・催事へのフィードバック</p> <p>◇上記結果を踏まえ3月の連続講座では佐藤洋一郎先生をはじめ、内容に即した講師陣の招聘を計画した。</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>S</p> <p>A</p> <p>(B)</p> <p>C</p>	特別展・企画展ごとの展示内容についてのアンケート調査を実施しているが、接遇・設備等館全般に係る利用者満足度調査が行われていないため、初期の目標は達成されているものの、計画には達していないものと考ええる。	施設所管課の評価の変更は妥当。
10その他創意工夫	○その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか。		<p>■ミュージアムショップにおいて、地場産業でもある井阪ガラス製作所による製品や、貴石により製作された装身具のほか、オリジナルの絵葉書や土器スタンプの販売をはじめ、各地の弥生時代や文化に関する一般書籍や図録の販売を行なっている。</p> <p>■大阪府文化財センター作成の遺跡発掘調査報告書などを開架し、購入できるものは回転を行なうなどして指定管理者の使命のひとつに上げられる文化財の普及啓発に努めた。</p> <p>■近鉄文化サロンとの共催による講演会やワークショップを開催し、館外利用の利便性を高めた。</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	オリジナルグッズの販売など新企画を実施していることから、指定管理者の自己評価は適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
II 総括			アンケート調査結果に対して迅速に反応して、改善すべき点や取り入れる点を精査するよう心掛け、講師の招聘など可能なものについては実施できるようにして、様々な来館者のニーズに対応しました。ミュージアムショップでは、地元の伝統産業でもあるガラス製品や、弥生時代の外交を証明する「漢委奴國王」金印レプリカなどの定番人気商品のほか、弥生時代の装飾品を現代風にアレンジしたものや小物類など、来館者の動向を察知しながら品数を充実させていきます。近鉄文化サロンとの共催事業に対しては、近い将来天王寺に完成する近鉄グループの超大形商業施設の動向と人の流れを注視しながら、新たな来館者層を掘り起こすよう計画を立てます。				
<b>III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項</b>							
11収支計画の内容、適格性及び実現の程度	○収入・支出の積算と事業計画の整合性は図られているか。 ○収支計画の実現可能性はあるか。	○効率的な管理運営に努めます。	<p>■管理部門人件費の縮減 &lt;新規&gt;副館長職を学芸課長兼任とし、管理部門の人件費を縮減しつつ、センター 本部でのバックアップ体制の強化を図った。</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	副館長を学芸課長兼任とするなど経費を縮減し、効率的な管理運営に努めており、指定管理者の自己評価は適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○入館料収入減少の際には自主事業収入から繰り入れを行います。	<p>■自主事業の充実 ◇来館記念品（博物館グッズ）の開発を適時進める等、自主事業を積極的に展開し、入館料収入減少時の繰入金を確認するよう努めている。</p>				
12安定的な運営が可能となる人的能力	○十分な専門的力量及び実績をもつ専門職員の配置が図られているか。 ○職員採用・確保の方策（継続雇用等）は適切か。 ○府職員との協働体制は適切か。 ○職員の指導育成・研修体制は適切か。 ○効率的かつ効果的な業務執行体制を提案しているか。 ○明確な責任体制を提案しているか。	○これまでの経験と実績を継承できるスタッフ力があります。	<p>■過去5年間培ってきたノウハウの蓄積、活用 ◇当センターの弥生時代に通じた考古学系専門職員及び過去5年間の指定管理期間の経験実績を継承した職員の配置、経験を重ねてきたミュージアムスタッフの力、これらを合わせることで、善良な管理運営と接遇に努めてきた。</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>S</p> <p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	組織のもつ人材を十分に活かした配置を行ったうえで、府職員との定期的な会合を開くなど、計画達成にむけて協議を行っているため、指定管理者の自己評価については適正であると考ええる。	施設所管課の評価は妥当。
		○センター本部との連携と教育委員会との連絡調整を密にします。	<p>■博物館、センター本部、大阪府教育委員会との間の定期連絡会議の開催 ◇常に現状把握と解決策を話し合い、その間に発生した事項に対しては報告・連絡・相談を確実にし、互いの意思疎通を密に遺漏のないように心がけている。</p>				
		○運営協議会の助言・指導を受けて事業を進めます。	<p>■運営協議会提言の実行 ◇12月開催の運営協議会でご提言いただいた「館員の顔が見える博物館」について、「世界の食」を共通テーマとして学芸員のおのが講演する企画を立案し、2月3日から8回にわたって開催することとした。</p>				
		○地元二市との連携を密にします。	<p>■和泉市、泉大津市との協働体制 ◇◇両市の文化財関係部署のみならず、商工会・観光商工課・産業政策課・JA和泉野など関連部署との連携を深め、次の事業に協力、出展を行った。 「第3回泉州弥生の郷まつり」（8月）（参加者=3,000名） 「泉呼の衣装コンテスト」・「商工まつり」（10月）（総参加者=110,000名） 「音☆楽市」（池上曾根史跡公園で開催）2回（総参加者=400名） 「高校軽音フェスin弥生の社2011～悠久の時間を奏でて3」（総参加者=1,500名）</p>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
13 安定的な運営が可能となる財政的基盤	○運営基盤として、経営規模・事業規模・組織規模は充分か。 ○運営基盤として、財務状況は適正か。		<p>■経営規模、事業規模 ◇大阪府内の発掘調査及び博物館の管理運営を安定的に行っている。 前期事業収益：1,708,670千円 前期経常収益：1,775,405千円。</p> <p>■健全な財務状況 ◇法人の基本財産：116,700千円 正味財産前期末残高：1,728,140千円。 借入金：なし</p> <p>■公益財団法人への移行 ◇大阪府より公益認定を受け、平成23年4月に公益財団法人に移行。</p>	S A B C	S A B C	経営については、特に問題は見られず、良好であり、管理者の自己評価は適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
III 総括			<p>管理運営経費については、前年度の5%を削減し、可能な限りのコスト削減を図ってきました。人件費の圧縮に努める一方、センター本部及び教育委員会との連絡を密にし、必要に応じた支援を得るとともに相互共通認識の下で現状把握と課題解決を図ることができたと考えています。</p> <p>また、地元の和泉市、泉大津市との連携協力を進め、博物館のPRに努め、入館者の増に繋がる催し等を積極的に展開してきました。</p> <p>今後も、このような協力連携体制を維持し、各方面からの支援、協力を得ながら博物館の発展に寄与したいと考えております。</p>				

- ※ 評価は下記の4段階評価とする。
- S：優良（提案以上の事業を実施し、大きな成果が得られた） A：良好（計画通りに事業を実施し、当初の成果が得られた）  
B：ほぼ良好（計画には達しなかったが、ほぼ初期の目的が得られた） C：要改善（計画に達せず、改善の余地がある）
- ※ 指定管理者の自己評価結果と施設所管課の評価結果とを突き合わせて、指定管理者と施設所管課の双方が共通の課題認識を行う必要がある。
- ※ サービスの継続性については、事業主体が作成している財務諸表等からチェックを行い、必要に応じて施設所管課を通じ事業者に対して説明を求める。
- ※ 評価委員会は、評価が妥当であるか意見を述べ、評価委員会が施設所管課へ指摘・提言を行う。